

版木焼失、現存は国内外3点のみ



柏市内で発見された川瀬巴水の「手賀沼」

柏の良家で「幻の名画」発見

美しい日本の風景を伝えた版画家、川瀬巴水（二八八三—一九五七）の版画「手賀沼」が、柏市内の絵画収集家宅で見つかった。数少ない作品で、美術関係者は「貴重な発見だ」と喜ぶ。十月一日からは市内のギャラリーで展示される。（富江 直樹）

川瀬巴水の版画「手賀沼」

来月1日から 柏のギャラリーで展示



川瀬巴水

巴水は東京・芝の生まれ、志賀直哉ら白樺派の文壇の中心人物。鏗々たる筆致で、同門の伊東深水とともに「風景の巴水、美人の巴水」と称された。迫力ある画の深さと、入道雲や雲を映した湖面を歩き、数多くの風景画を描き、臨場感豊かに描く独特の画風で高く評価されている。

今年七月、柏市の絵画収集家宅を訪れたギャラリー社長が偶然発見したという。「手賀沼」（縦二十四センチ、横三十六センチ）の別の作品五点のほか、は一九三〇年の作品「深水や武者小路実篤らの木は戦時中に焼けてしまった。当時刷られた作品は国内外に三点ほどしか確認できないという。」

「手賀沼」は、十月一日から三十一日まで、柏市旭町四の「ギャラリーヌーベル本店」で展示される。最近刷られた巴水の別の作品五点のほか、深水や武者小路実篤らの作品約百点も並ぶ。入場無料。問い合わせはヌーベル本店。電話04(71)46-6800へ。

郷愁誘う手賀沼「原風景」

「幻の木版画」といわれていた風景版画の巨匠川瀬巴水（1883～1925）の作品「手賀沼」が、10月1日から柏市旭町4のギャラリー・ヌーベルで開催される特別企画展「川瀬巴水と同時代の巨匠展」に出展される。同ギャラリー社長で柏市文化財審議委員の美術研究家、鈴木昇さん（56）が、同市内の版画収集家宅に所蔵されていたのを発見し、入手した。

【大矢武信】

川瀬巴水の木版画

鈴木さんの鑑定による 上空の入道雲の力強さが印象的で「手賀沼」は縦36センチ、横17センチの木版画。制作は1930（昭和10）年。柏市（旧沼南町）側からの手賀沼対岸の我孫子を遠望しており、美しい麦畑の近景と、方の門下生。兄弟子の伊東

幻の作品お披露目

来月1日から 柏で特別企画展



川瀬巴水

深水とは「風景の巴水、美人画の深水」と評され、欧米では葛飾北斎や安藤広重と並び称されている。国内の名所を描いた作品集「美しい日本」や毎日新聞社刊の「巴水・木版画集」は版画家バーナード・リーチなど手賀沼に関連した当時の巨匠たちの芸術作品約100点が出展される。

「手賀沼」はオランダと

（04・7116・680）へ。

米国の美術館と、東京・銀座の画廊で計3点が確認されているだけ。鈴木さんは「一枚の木版画は約200点前後刷られるが、海外流出や先の戦火で大半が失われたため、幻の版画」になった」としている。

「幻の木版画」と言われた川瀬巴水の名作「手賀沼」
ギャラリー・ヌーベル提供



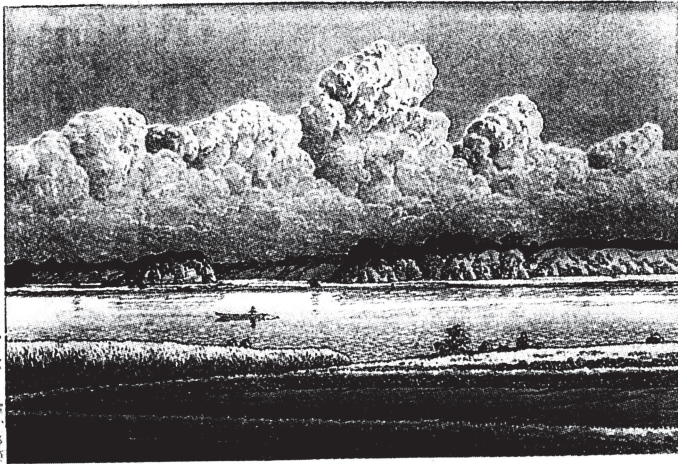


川瀬 巴水

風景版画の巨匠・川瀬巴水（一八八三―一九五七）が、昭和初期の手賀沼の風景を描いた版画などを紹介する特別企画展「川瀬巴水と同時代の巨匠展」が一日から、ギャラリー・ヌーベル（柏市旭町）で開かれる。入場無料。

巨匠・川瀬巴水の作品紹介

柏のギャラリー・ヌーベル



特別企画展の目玉となる木版画「手賀沼」

と呼ばれていて、柏市内の委員で同ギャラリー社長の絵画収集家宅に所蔵されて、鈴木昇さん（五）が今年七月いたのを、同市文化財審議 中旬に発見した。

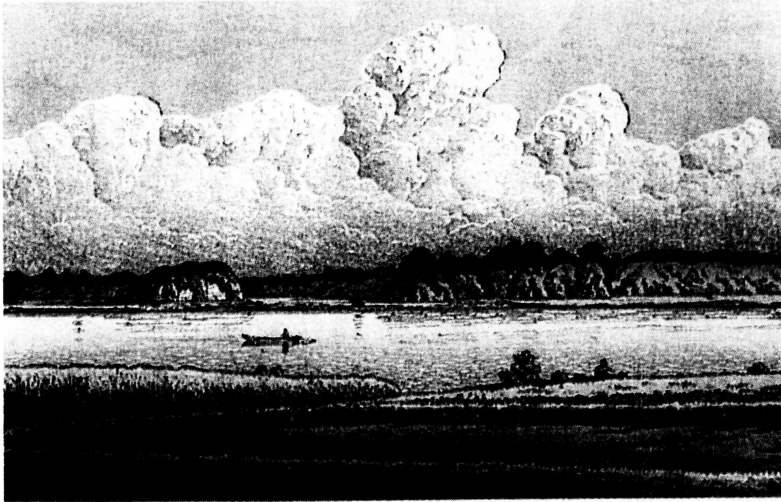
手賀沼描いた「幻の木版画」

鈴木さんの鑑定によると、同作品は一九三〇（昭和五）年の制作で、柏市側から対岸の我孫子市側を遠望した当時の手賀沼の風景が描かれていて、白樺派の文人たちも感嘆したといわれている。

通常、木版画は一枚の原版から二百点ほどが刷られるが、「手賀沼」は海外に流出したり戦火や災害などで多くが失われたと思われる、海外ではアメリカとオランダの美術館に一点ずつ、国内では東京・銀座の画廊で一点が確認されているのみ。

同展には、ほかにも伊東深水の美人画、武者小路実篤の掛軸、バーナード・リーチの陶芸など約百点が出品される。

会期は三十一日まで。開催時間は午前十時―午後七時。問い合わせはギャラリー・ヌーベル（☎047-146-6800）。



巴水の「手賀沼」

柏で展示

浮世絵の流れをくむ木版画家、川瀬巴水（1883～1957）が手賀沼を描いた版画「写真」が今夏、柏市内で見つかった。同じ版画は戦災などで失われ、国内に多くは残っていない、という。

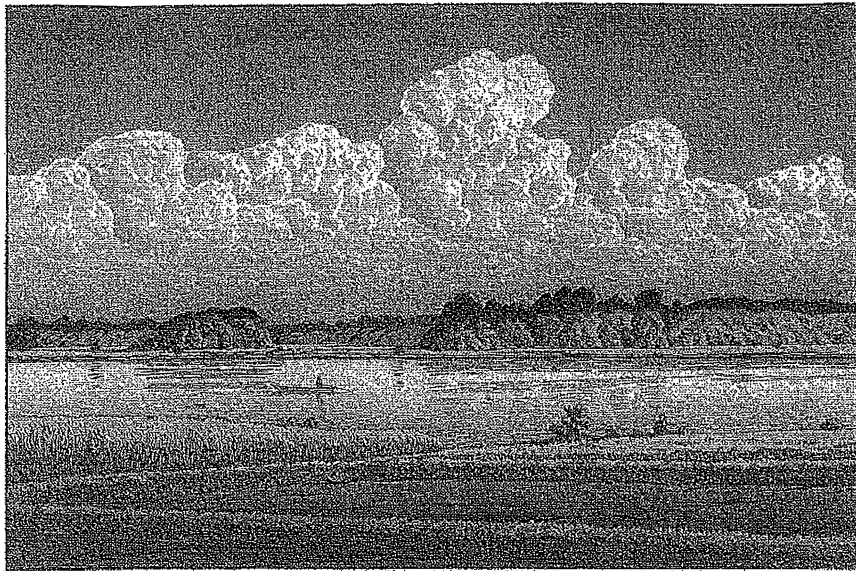
1930（昭和5）年の作品で、柏市の旧沼南町側から我孫子市側を望んだ構図となっている。巴水は、浮世絵の技法に洋風のタッチを加えた風景画を得意としており、欧米でも高く評価されている。

柏市旭町4丁目のギャラリーヌーベル代表の鈴木昇さん（56）が今夏、一昨年亡くなった柏市の知人宅を訪れた際に、箱の中に入っているのを見つ

けた。鈴木さんは「雲の陰影など臨場感あふれた、すばらしい作品」と話す。

同店では、巴水と同時代に活躍したり、手賀沼に縁があったりした作家たちの作品約100点を、巴水の作品とともに31日まで展示している。入場無料、水曜定休。問い合わせは同店（☎04・7146・6800）へ。

川瀬巴水「幻」の版画展示



川瀬巴水が描いた「手賀沼」。脂の乗った時代の作品だという＝鈴木昇さん提供

我孫子 市民グループら核に運営



川瀬巴水

大正・昭和を代表する風景版画家の川瀬巴水（1883～1957）に、我孫子市のシンボル「手賀沼」を描いた作品がある。版木が戦火で焼失。「幻」になった版画を入手した画廊主を中心に、市民グループを核にした実行委員会が11月から市内で、巴水の名作を並べた作品展を運営する。

巴水が「手賀沼」をスケッチしたのは1930年6月。旧沼南町（柏市）側から対岸の我孫子市側を描いた。のどかな田園風景で、入道雲に日があたって赤く染め出し、手前に麦畑、川には渡し舟が浮かぶ構図だ。

木版画は通常200枚ほどずられる。だが、「手賀沼」は海外流出や戦火で大半が失われ、

東京・新橋生まれ。日本画家鈴木清方の弟子になり、伊東深水の影響で版画家に転向。浮世絵版画の新たな世界を切り開き、雪、月、雨など詩情的な風景版画で「旅情詩人」などと呼ばれる。国内より海外での評価が高く、葛飾北斎や歌川広重と並び称される人気がある。

版木も焼失していた。

柏市でギャラリーを営む鈴木昇さん（62）が10年ほど前に、柏市内の収集家から入手。昨年4月、柏高島屋で開かれた展覧会に出品されて話題になった。

制作80周年を記念し、我孫子でも「多くの市民に知ってほしい」と市あゆみの郷・都市建設公社の主催で作品展の開催が決定。鈴木さんを委員長に、約10の市民グループのメンバー約200人で実行委が発足した。実行委の会合が13日にあり、

青木章副市長が「市を挙げた展覧会にしたい」とあいさつ。巴水作品の版元だった渡邊版画店の3代目で、テレビ番組の鑑定士でも知られる渡邊章一郎さん（52）も出席した。

渡邊さんは「この十数年巴水の正当な評価が高まってきた。また、米アップル社を創業し、先自死去したステイプ・ジョブズ氏について、「巴水の風景画の一大コレクターだったと聞いている」との逸話も披露した。

巴水木版画展は11月25～12月4日、我孫子市我孫子4丁目の市民プラザ・ギャラリーで。浦安や関宿など県内の風景画数点を含めた計約200点が出品されるほか、連日トークショーや江戸木版画すり師による実演などのイベントがある。

入場料600円（前売り500円、中学生以下無料）。問い合わせは鈴木さんのギャラリー・ヌーベル（04・7146・6800）。（佐藤清孝）